

平成28年10月11日
国立研究開発法人防災科学技術研究所

日本海溝海底地震津波観測網（S-net）の 海底ケーブル陸揚げ作業見学会を千葉県南房総市で実施

国立研究開発法人防災科学技術研究所（理事長：林春男）は、平成23年度から文部科学省地球観測システム研究開発費補助金による「日本海溝海底地震津波観測網（以下、S-net）の整備」事業を実施しております（参考）。S-netの敷設工事は平成25年度に千葉県南房総市から始まり、その後も各海域に観測網の整備を続けてまいりました。平成28年7月28日からはS-netの150箇所の観測点のうち、試験運用を開始していた125箇所の海底津波計データが、気象庁での津波観測値の発表等において活用され始めました。9月からは海溝軸外側の海底部観測機器敷設工事を行っており、来たる10月18日に千葉県南房総市にて海底ケーブルの陸揚げ作業を行うこととなりましたので、それに伴い現地での作業見学会を実施いたします。

1. 日時：平成28年10月18日（火） 7:00～9:00

2. S-net 陸揚げ作業見学会

千葉県南房総市白浜運動広場付近 陸揚げ地点

※気象状況等（海上の波が高い等）により、見学会が延期あるいは中止される場合があります。状況によっては当日工事開始直前での延期・中止もございます。あらかじめご了承ください。見学会の催行・延期の状況は、防災科学技術研究所 Twitter (<https://twitter.com/C2010NIED>)にてお知らせ致します。

3. 対象：地域住民の皆様、プレス等興味のある方はどなたでも参加可能です。

なお、取材を希望される場合は、お手数ですが、別添の「プレスご回答用紙」にて防災科学技術研究所企画部広報課へ10月14日（金）までにメール或いはFAXでお申し込みください。

4. 本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会
千葉県政記者会、南房総市記者クラブ

S-net 海底ケーブル陸揚げ作業見学会

開催日程

○平成28年10月18日（火） 7:00～9:00

S-net 陸揚げ作業見学会

○場所 南房総市 白浜運動広場付近 陸揚げ地点砂浜
(〒295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口 5580-113 地先)

○時間 7:00～9:00

- ・海底ケーブル陸揚げ作業の様子を陸揚げ地点付近にて御見学頂けます。見所はケーブルの先端が水際に到達する「ケーブル先端汀着」の瞬間です。スケジュールの詳細につきましては、次頁「海底ケーブルの陸揚げ作業について」を御参照ください。
- ・上記の時間は「防災科学技術研究所」の腕章を着用した説明員が陸揚げ地点付近に待機していますので、お気軽にお声掛けください。
- ・終了後、質疑応答の時間を設けます。取材されるプレスの方は、別添の「プレスご回答用紙」にて防災科学技術研究所企画部広報課へ10月14日（金）までにメール或いはFAXでお申し込みください。

※気象状況等（海上の波が高い等）により、見学会が延期あるいは中止される場合があります。状況によっては当日工事開始直前での延期・中止もございます。あらかじめご了承ください。見学会の催行・延期の状況は、防災科学技術研究所 Twitter (<https://twitter.com/C2010NIED>)にてお知らせ致します。

海底ケーブルの陸揚げ作業について

今回の海底ケーブル陸揚げ作業はKT Submarine 社の海底ケーブル敷設船「Segero(セゲロ)」を使用します(総トン数 8,320 トン、全長 115.8m)。敷設船を沖合に固定しケーブル端末を繰り出し、陸のロープと接続し、浮力体(ブイ)を付けたケーブルを重機により引込み陸揚げします(図1)。

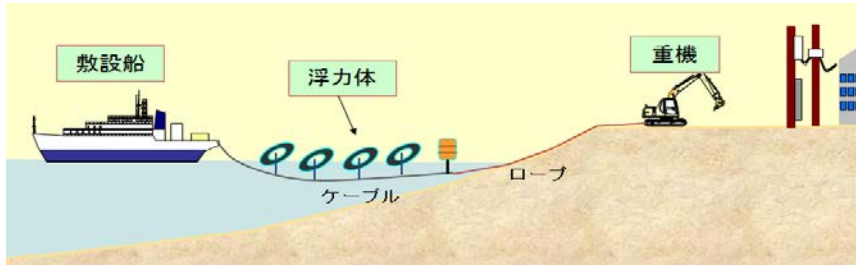


図1 陸揚げ作業の概略図



写真1 ケーブル陸揚げの様子

(平成25年7月に南房総で行われたケーブル陸揚げ風景)

陸揚げ当日の作業工程(予定)

※気象状況等(海上の波が高い等)により工事開始直前にスケジュールを変更、あるいは工事日程を延期することがあります。

04:30頃 船固(微修正)開始

04:45頃 陸揚げ実施判断

05:00頃 船固終了・陸揚げ開始

08:00頃 ケーブル先端汀着(先端が水際に到達)

08:20頃 敷地内に必要なケーブル余長を陸揚げ
ダイバーによるルート修正開始

08:30頃 ケーブル先端前でセレモニー(写真撮影)

09:00頃 陸揚げケーブルの浮力体切り離し

07:00~09:00

ケーブル陸揚げ作業見学会

12:30頃 敷地内管路にケーブル引き込み

13:00頃 陸揚げ後試験を敷設船から実施

14:00頃 敷設船の船固解除・沖合へ向けて敷設開始

海底ケーブル敷設船「Segero」は陸揚げ前日は沖合にて待機し、陸揚げにあわせて当日の早朝に沖合約900m(水深約12m)の地点に進入して参ります。

見学会場

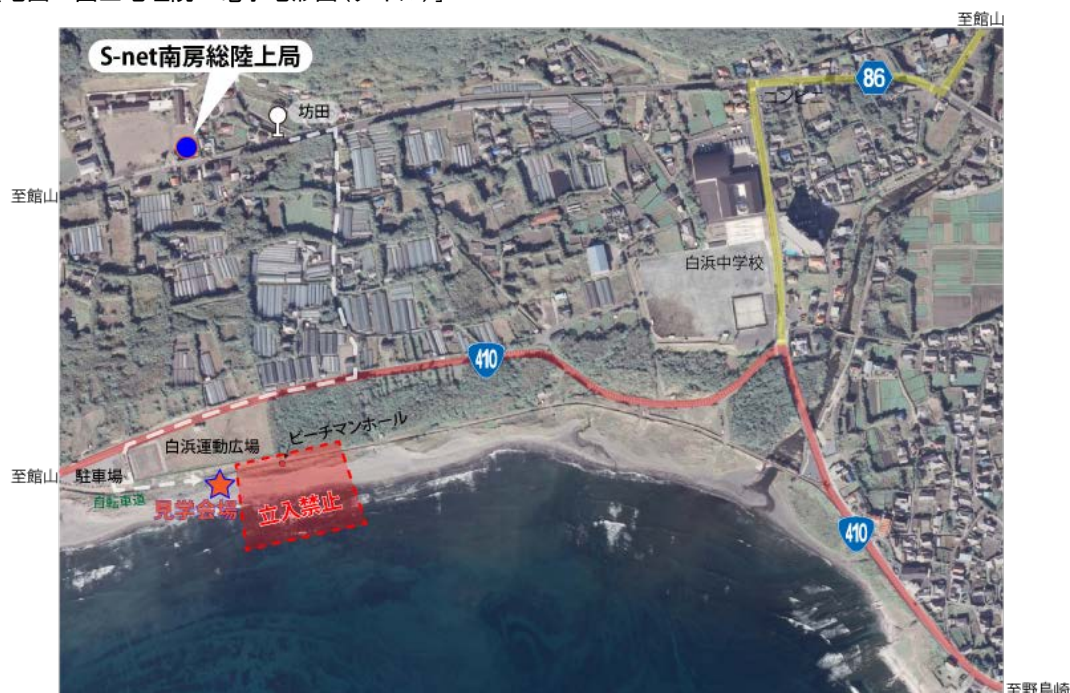
電車：JR 内房線館山駅より安房白浜行きバス [JR バス関東]南房洲本線 30分

坊田(旧長尾小学校前)停留所 下車徒歩7分(約500m)

車：富津館山自動車道富浦 ICより白浜方面 30分



[地図：国土地理院 電子地形図(タイル)]



[空中写真：国土地理院]

見学についてのお願い

- ・お車で越しの方は 白浜運動広場の駐車場を御利用下さい。
- ・白浜運動広場から見学会場へは降りられません。駐車場側の階段から迂回頂くようお願い致します。
- ・立入禁止エリア(赤枠部分)には入らないようお願い致します。
作業の状況により、立入禁止エリアが広がる場合があります。その際には見学場所の移動をお願いする場合がありますので、作業員の誘導に従って頂きますようお願い致します。
- ・作業見学は屋外(砂浜)となります。テントや風除け等はございませんので、予めご了承ください。

日本海溝海底地震津波観測網「S-net」とは

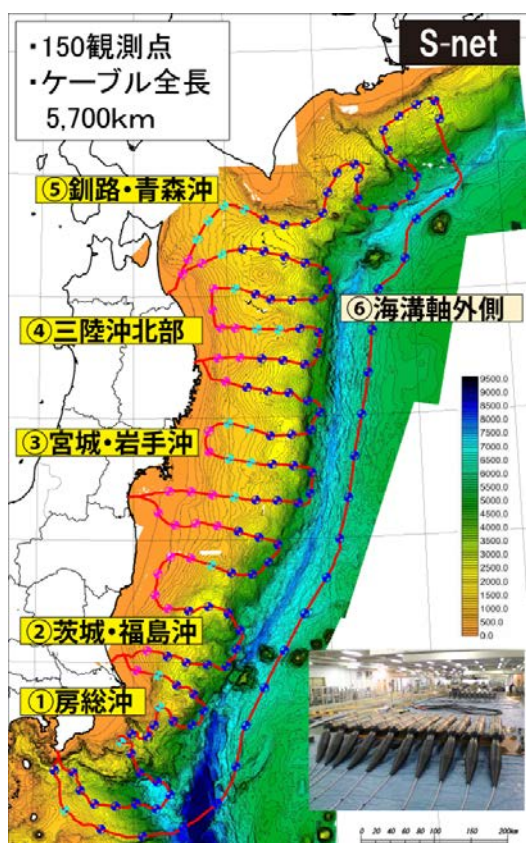


図1 日本海溝海底地震津波観測網 (S-net)

1. はじめに

国立研究開発法人防災科学技術研究所は、平成23年度から文部科学省地球観測システム研究開発費補助金による「日本海溝海底地震津波観測網の整備」事業により、東日本太平洋沖の日本海溝・千島海溝南部に沿ってケーブル式地震計・津波計から成る観測点を高密度に配備し、リアルタイムの連続観測を行う、海底の地震と津波の観測網整備事業を実施しています。

「S-net (エス-ネット)」という名称は、日本海溝海底地震津波観測網の英語名称、**Sea**floor **o**bservation **n**etwork for **e**arthquakes and **t**sunamis along the Japan Trench の頭文字 S、n、e、tをとったものです。この名称が広く親しみを持って呼んで頂けるよう、運用に向けて整備を続けています。

S-net 整備事業 HP

<http://www.bosai.go.jp/inline/>



図2 観測装置の外観と内部模式図

2. 観測網の概要

観測網は観測装置と海底ケーブル及び陸上局から成り、太平洋沖の5つの海域(①房総沖 ②茨城・福島沖 ③宮城・岩手沖 ④三陸沖北部 ⑤釧路・青森沖)と日本海溝の⑥海溝軸外側(アウターライズ)の計6海域の150箇所に観測点を順次整備予定です(図1)。

観測装置は地震計(速度計、加速度計)と津波計(水圧計)等で構成され、水深8,000mまで設置可能な耐圧容器に収納されています(図2)。

各観測点のデータは光ファイバー海底ケーブルで陸上局に伝送され、さらにそこから地上通信回線で防災科学技術研究所や気象庁等の関係機関に送信されます。

これにより地震と津波のリアルタイム・連続観測、監視が可能となります。海溝型地震や津波を直接検知し、精度の高い迅速な情報伝達を行なうことで緊急地震速報や津波即時予測の高度化などに貢献します。

平成 25 年 7 月に①房総沖の海底ケーブル及び観測装置の敷設工事が始まり、その後も各海域に観測網の整備を続けてまいりました。平成 28 年 7 月 28 日からは、150 箇所を観測点のうち、試験運用を開始していた①から⑤までの海域、計 125 箇所の海底津波計データが、気象庁での津波観測値の発表等において活用され始めました。



図3 ⑥海溝軸外側（アウターライズ）の海底ケーブルと観測点の敷設予定位置

今回のケーブル陸揚げ作業は、⑥海溝軸外側（アウターライズ）に敷設される海底ケーブルの南端部分となります（図3）。ケーブルは、ビーチマンホールから陸上管路を經由して南房総陸上局と繋がり、観測機器への給電や、データの送受信が行われます。この⑥のルートでは観測装置は 25 台、ケーブル長は約 1,500km に及びます。なお、⑤釧路・青森沖ルートの北端と⑥海溝軸外側ルートの北端は陸揚げせず、それぞれがシーアース（先端部に電極を繋いで海底に設置）されています。

3. 今後の予定

南房総陸上局内に⑥海溝軸外側ルート用の機器を整備する作業を並行して行っており、今年度中には⑥の観測点もデータ配信を開始する予定です。これにより、S-net の 150 箇所すべての観測点が稼動を開始します。

国立研究開発法人 防災科学技術研究所

企画部広報課 行き

メール : toiwase@bosai.go.jp

F A X : 029-863-7699

プレスご回答用紙

お手数ながら 10月14日(金)までにご回答お願い申し上げます

件名 : 日本海溝海底地震津波観測網 (S-net)
海底ケーブル陸揚げ作業見学会 (千葉県南房総市)

1. 御社名 : _____

2. 御所属 : _____

3. 御名前 : _____
ふりがな

4. 人数 : _____

5. 御連絡先 : (TEL) _____

(FAX) _____

(e-mail) _____

6. その他 : (取材上のご希望等) _____
